

IT部門のための製造業の業務知識と管理技術実践入門講座【オンラインライブ】 (4125190)

本講座は製造業の現場と管理を学ぶコースです。まず業務知識を取得し現場の要求を「理解」する能力を学びます。次のテーマである「全社から見た業務のあるべき姿」を学ぶ「管理技術習得」への準備を行います。本講座はその入り口になる実践的な入門コースです。

開催日時	2025年12月15日(月) 9:00-16:00ライブ配信（前半） 2026年1月16日(金) 9:00-16:00ライブ配信（後半）
JUAS研修分類	ビジネススキル(業種・業務知識)
カテゴリー	IS導入（構築）・IS保守 専門スキル
DXリテラシー	What(DXで活用されるデータ・技術)：デジタル技術
講師	八木弘泰 氏 (株式会社管理技術ラボ 代表取締役) 中小企業診断士、特種, 一種情報処理技術者。 富士通のSEとして、製造業向けのシステム構築に17年間従事。 本邦初の生産管理パッケージ「MAPS-V1」を開発。2010年「管理技術」の製造業・農業他への普及、定着化のため、「管理技術ラボ」を設立し、「製造業の競争力強化」のため、超上流工程から定着化・効果測定まで「業務再構築」が実施できる「ASGUIDE」を開発し、事業展開を行っている。 注)「ASGUIDE」とは、業務再構築のため管理技術を駆使したコンセプト・メソッド・ツールを体系化した方法論
参加費	J U A S会員/ITC : 70,400円 一般 : 90,200円 (1名様あたり 消費税込み、テキスト込み) 【受講権利枚数2枚】
会場	オンライン配信 (指定会場はありません)
対象	・DX推進の役員・幹部社員・DX推進担当者で、DXで利益を求める方 ・工場の業務再構築及び保守に携わる情報システム部門の方・生産管理・購買／外注、品質、物流、原価各部門の方 初級
開催形式	講義
定員	25名
取得ポイント	※ITC実践力ポイント対象のセミナーです。 (2時間1ポイント)
特記	※両日ともご参加いただける方 ※「知識」の前提条件はありません。但し、現在のDX推進に疑問を持ち、品質・生産性の強化を実現したいとの意思を持つ方が前提です。
ITCA認定時間	12

主な内容

■受講形態

ライブ配信 (Zoomミーティング) [\[セミナーのオンライン受講について\]](#)

■テキスト

開催7日前を目途に発送（お申込時に送付先の入力をお願いします）

※開催7日前から開催前日までにお申込の場合、テキストの送付は開催後になります。ご了承ください。

■開催日までの課題事項

特になし

本講座は製造業の現場と管理を学ぶコースです。

現場を知らないと、「現場からの要求」の把握が「問題事象」に留まり、問題事象の「真因」を追及できず、問題事象毎の対処となってしまいます。

IT部門が全社の仕組みづくりを担う立場であるならICT技術と共に「現場の業務内容と全社視点での業務のあるべき姿」を習得する必要があります。

すなわち、業務知識、管理技術、分析設計・定着化・効果測定技術、各種基準標準化をガイドするデータ構築技術が必要となります。

その一歩は「業務知識」です。

まず業務知識を取得し現場の要求を「理解」する能力を学びます。

次のテーマである「全社から見た業務のあるべき姿」を学ぶ「管理技術習得」への準備を行います。

本講座はその入り口になる実践的な入門コースです。

■主な内容

1 モノづくりの意義を理解する

・製造業の仕組づくりの意義を認識する

2 モノづくりの業種は595種存在する

・業種毎に学ぶのは困難、だから製造業は難しい

・管理技術の視点では7種のみ。7種類を理解すればよい

3 生産方法・形態による工場のタイプを理解する

・工場のタイプ別のモノづくりを理解し製造業の全容を把握する

4 工場の仕組の概要を理解する

・工場業務の大きな流れを理解し、組織のイメージをつかむ

5 工場の各部門の仕事の概要を理解する

・組織毎にどのような仕事をしているか、概要の理解する

6 なぜ業務があるのか－業務間の連携の必然性を理解する

(1) 受注出荷業務

(2) 生産計画資材計画業務（生産計画・製造計画・購買計画・検査計画）

(3) 購買外注業務

(4) 工程管理業務

(5) 在庫管理業務

(6) 品質管理業務

(7) 原価管理業務

(8) BOM業務

・これらが、生産管理の「分業」単位であることを理解する

・「業務」は独立したものではなく、業務間の連携で成り立つ事を理解する

7 業務毎の業務の目的と、その処理方法を伝票単位で学ぶ

・8業務毎の「業務処理目的」を整理し理解する

・実企業の「業務フローチャート」を基に、業務毎に、どの様な処理手続きで、どのような伝票、台帳を基に執務しているのか

8. 業務毎に、どのような「問題事象」が発生しているのか

・業務毎に15項目の問題事象を示し、認識する

・解決策はICT機能で解決できるか

9. 業務毎の管理技術の代表例

・「業務知識」の理解を目的にして、一般的に使用されている管理技術を理解する